



## 平成26年12月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

平成26年11月5日

上場会社名 株式会社デジタルアドベンチャー 上場取引所 東  
 コード番号 4772 URL <http://www.digiadv.co.jp>  
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 李 命学  
 問合せ先責任者 (役職名) 管理本部長 (氏名) 大山 智子 TEL 03-6809-6118  
 四半期報告書提出予定日 平成26年11月10日  
 配当支払開始予定日 —  
 四半期決算補足説明資料作成の有無：無  
 四半期決算説明会開催の有無：無

(百万円未満切捨て)

### 1. 平成26年12月期第3四半期の連結業績（平成26年1月1日～平成26年9月30日）

(1) 連結経営成績（累計） (%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
26年12月期第3四半期	1,735	△46.3	△66	—	△53	—	△21	—
25年12月期第3四半期	3,230	1.5	△290	—	△314	—	△216	—

(注) 包括利益 26年12月期第3四半期 △21百万円 (—%) 25年12月期第3四半期 △266百万円 (—%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
26年12月期第3四半期	△0.40	—
25年12月期第3四半期	△3.98	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
26年12月期第3四半期	2,381	1,749	72.6	31.84
25年12月期	2,315	1,798	75.2	32.05

(参考) 自己資本 26年12月期第3四半期 1,729百万円 25年12月期 1,740百万円

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
25年12月期	—	0.00	—	0.00	0.00
26年12月期	—	0.00	—	—	—
26年12月期(予想)	—	—	—	0.00	0.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無：無

### 3. 平成26年12月期の連結業績予想（平成26年1月1日～平成26年12月31日）

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	2,420	△36.2	0	—	10	—	50	—	0.92

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無：無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）：無

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	26年12月期3Q	54,392,638株	25年12月期	54,392,638株
② 期末自己株式数	26年12月期3Q	79,576株	25年12月期	79,476株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	26年12月期3Q	54,313,085株	25年12月期3Q	54,313,687株

※ 四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期連結財務諸表レビュー手続は終了していません。

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

業績予想につきましては、現時点で入手可能な情報に基づき作成したものであり、様々な不確定要素が内在しておりますので、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績はこれらの予想数値と異なる場合があります。なお、業績予想に関する事項につきましては、四半期決算短信〔添付資料〕3ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報（3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

## ○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報 .....	2
(1) 経営成績に関する説明 .....	2
(2) 財政状態に関する説明 .....	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明 .....	3
2. サマリー情報（注記事項）に関する事項 .....	4
(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 .....	4
(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 .....	4
(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示 .....	4
3. 継続企業の前提に関する重要事象等 .....	4
4. 四半期連結財務諸表 .....	5
(1) 四半期連結貸借対照表 .....	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書 .....	6
四半期連結損益計算書	
第3四半期連結累計期間 .....	6
四半期連結包括利益計算書	
第3四半期連結累計期間 .....	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項 .....	8
(継続企業の前提に関する注記) .....	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記) .....	8
(セグメント情報等) .....	8

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

## (1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間におけるわが国経済は、政府の経済政策や金融緩和策などにより円安・株高が進む中、企業業績は回復基調にあります。4月以降の消費税率の引き上げによる個人消費の低迷や不安定な海外景気等、先行き懸念される状況が続いております。

このような経営環境の中、当社グループは有料放送における韓国コンテンツのハブチャンネルを目指し、韓国エンターテインメント総合チャンネル「KNTV」の有料放送を主たる事業とするKNTV株式会社の株式10.89%を取得し、グループ会社として連携を強化しております。「DATV」と「KNTV」の2チャンネル体制により、双方のリソースを有効利用しコンテンツ購入の効率化を図ることで、よりよい番組・コンテンツをより早くお客様に提供できることとなります。

当第3四半期連結累計期間の業績につきましては、7月から9月に当社所属アーティストをはじめとした大型イベント開催が集中したこと等により当第3四半期連結会計期間の売上高は大きく増加しております。

一方、利益面についても、イベントコスト管理により適正な事業原価に抑えることで売上総利益率が改善し、当第3四半期連結会計期間の営業利益は黒字化しておりますが、第2四半期連結累計期間までの販売費及び一般管理費を吸収できず累計では営業損失となっております。

この結果、当第3四半期連結累計期間の売上高は17億35百万円（前年同期比46.3%減）、営業損失66百万円（前年同期は営業損失2億90百万円）、経常損失53百万円（前年同期は経常損失3億14百万円）、四半期純損失21百万円（前年同期は四半期純損失2億16百万円）となっております。

セグメントの業績は、次のとおりであります。

なお、従来、「デジタルコンテンツ配信事業」として区分しておりました携帯電話及びパソコンプロバイダーを通じてのデジタルコンテンツ配信等については、量的な重要性が低下したため、第1四半期連結会計期間より「その他」に含めて表示する方法に変更しており、以下の前年同四半期比較については、前年同四半期の数値を変更後のセグメント区分に組み替えた数値で比較しております。

## (物販事業)

所属アーティストの公式グッズや超新星をはじめとした韓流アーティストのCD・DVD等の販売があったこと、また7月から9月に大型イベント開催が集中したことでイベントグッズ販売が好調であったことにより、当第3四半期連結会計期間は売上高、利益とも増加しております。この結果、当第3四半期連結累計期間の売上高は3億61百万円（前年同期比11.3%減）、セグメント利益は4百万円（前年同期比91.9%減）となっております。

## (ライセンス&amp;メディアコミュニケーション事業)

当社所属アーティスト キム・ヒョンジュンソロツアー「2014 KIM HYUN JOONG WORLD TOUR “夢幻” IN JAPAN」、自社テレビ局DATVにて日本初放送しました韓国ドラマ「会いたい」のドラマイベント「～初恋の黄色い傘～」をはじめとした大型イベントを7月から9月に集中して開催しております。また、新人アーティスト発掘・育成事業の第1弾である原宿発がけっぷちボーイズグループBEE SHUFFLEが映画「原宿デニール」（監督：タカハタ秀太氏）に出演決定するなど話題を提供してまいりました。これらの要因により当第3四半期連結会計期間の売上高は大きく増加しておりますが、前年同期は所属アーティストの全国ツアーに加え大型ドラマ版權DVD事業化等があったこともあり、累計売上高は大きく減少しております。

利益面では、イベントコスト管理により適正な事業原価に抑えるなど事業コスト削減により利益率改善に努めたこと、また前年同期はドラマ版權の償却コスト負担が大きかったこともあり、売上総利益が大きく増加しております。この結果、当第3四半期連結累計期間の売上高は13億58百万円（前年同期比47.6%減）、セグメント損失は69百万円（前年同期は、セグメント損失3億45百万円）となっております。

（その他事業）

前連結会計年度において、デジタルコンテンツ配信事業にグルーピングしておりました連結子会社3社の全株式を譲渡したことに伴い、当セグメントの重要性がなくなったため、第1四半期連結累計期間からその他事業に含めて記載しております。以下の前年同期比較については、前年同期の数値を変更後のセグメント区分に組み替えた数値で比較しております。

当第3四半期連結累計期間の売上高は16百万円（前年同期比93.0%減）、セグメント損失は0百万円（前年同期は、セグメント利益5百万円）となっております。

（2）財政状態に関する説明

（資産）

当第3四半期連結会計期間末における資産は、23億81百万円となり、前連結会計年度末に比べ66百万円増加しました。この主な要因は、現金及び預金が5億2百万円減少、前渡金が76百万円増加、投資有価証券が4億85百万円増加したことによるものであります。

（負債）

当第3四半期連結会計期間末における負債は、6億32百万円となり、前連結会計年度末に比べ1億15百万円増加しました。この主な要因は、買掛金が1億8百万円増加したことによるものであります。

（純資産）

当第3四半期連結会計期間末における純資産は、17億49百万円となり、前連結会計年度末に比べ49百万円減少しました。この主な要因は、利益剰余金が11百万円減少、および新株予約権が37百万円減少したことによるものであります。

（3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

連結業績予想につきましては、平成26年2月12日に公表いたしました通期の連結業績予想に変更はありません。

2. サマリー情報（注記事項）に関する事項

（1）当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動

該当事項はありません。

（2）四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

該当事項はありません。

（3）会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

該当事項はありません。

3. 継続企業の前提に関する重要事象等

当社グループは、2期連続で営業損失を計上しており、将来にわたって事業活動を継続するとの前提に重要な疑義を生じさせるような事象又は状況が存在しておりますが、これは、主に大型ドラマコンテンツ著作権の償却負担増によるものです。前連結会計年度において取得した著作権を概ね事業化し、営業キャッシュ・フローが改善しており、またDA TVの加入者増加による収益改善が見込まれることなどから、継続企業の前提に関する重要な不確実性は認められないものと判断しております。

なお、文章中における将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において判断したものであります。

## 4. 四半期連結財務諸表

## (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成25年12月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成26年9月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	1,316,693	813,890
売掛金	192,187	267,308
コンテンツ	1,162	1,092
商品	3,712	1,818
関係会社短期貸付金	400,000	360,000
前渡金	175,719	251,982
その他	96,303	82,393
貸倒引当金	△102	△134
流動資産合計	2,185,675	1,778,351
固定資産		
有形固定資産	13,469	13,573
無形固定資産	41,290	28,944
投資その他の資産		
投資有価証券	43,533	529,118
その他	122,272	119,473
貸倒引当金	△91,077	△87,477
投資その他の資産合計	74,729	561,115
固定資産合計	129,489	603,633
資産合計	2,315,164	2,381,985
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	297,758	406,284
その他の引当金	6,286	6,286
その他	212,369	216,441
流動負債合計	516,415	629,012
固定負債	554	3,847
負債合計	516,969	632,859
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	3,999,492	3,999,492
利益剰余金	△2,226,211	△2,237,566
自己株式	△32,412	△32,416
株主資本合計	1,740,868	1,729,509
新株予約権	57,327	19,616
純資産合計	1,798,195	1,749,125
負債純資産合計	2,315,164	2,381,985

## (2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

(四半期連結損益計算書)

(第3四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成25年1月1日 至平成25年9月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成26年1月1日 至平成26年9月30日)
売上高	3,230,614	1,735,376
売上原価	3,067,391	1,412,338
売上総利益	163,223	323,038
販売費及び一般管理費	453,861	389,486
営業損失(△)	△290,638	△66,447
営業外収益		
受取利息	11,354	8,859
為替差益	—	5,339
貸倒引当金戻入額	4,000	3,600
その他	2,085	1,164
営業外収益合計	17,439	18,963
営業外費用		
支払利息	521	88
出資金運用損	15,790	—
持分法による投資損失	13,753	5,736
為替差損	11,108	—
その他	28	1
営業外費用合計	41,201	5,825
経常損失(△)	△314,400	△53,310
特別利益		
投資有価証券償還益	103,941	—
関係会社株式売却益	—	7,382
新株予約権戻入益	64,074	40,113
その他	—	526
特別利益合計	168,016	48,022
特別損失		
減損損失	3,988	1,183
関係会社株式売却損	58,493	—
持分変動損失	—	10,275
その他	1,143	839
特別損失合計	63,624	12,298
税金等調整前四半期純損失(△)	△210,008	△17,586
法人税、住民税及び事業税	6,323	4,044
法人税等合計	6,323	4,044
少数株主損益調整前四半期純損失(△)	△216,332	△21,630
四半期純損失(△)	△216,332	△21,630

（四半期連結包括利益計算書）  
（第3四半期連結累計期間）

（単位：千円）

	前第3四半期連結累計期間 （自 平成25年1月1日 至 平成25年9月30日）	当第3四半期連結累計期間 （自 平成26年1月1日 至 平成26年9月30日）
少数株主損益調整前四半期純損失（△）	△216,332	△21,630
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△50,335	—
その他の包括利益合計	△50,335	—
四半期包括利益	△266,668	△21,630
（内訳）		
親会社株主に係る四半期包括利益	△266,668	△21,630

## (3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

## 【セグメント情報】

前第3四半期連結累計期間（自 平成25年1月1日 至 平成25年9月30日）

## 1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント			その他 (注)	合計
	物販	ライセンス&メディア コミュニケーション	計		
売上高					
(1) 外部顧客に対する売上高	407,116	2,594,166	3,001,282	229,331	3,230,614
(2) セグメント間の内部売上高又は振替高	—	—	—	—	—
計	407,116	2,594,166	3,001,282	229,331	3,230,614
セグメント利益又は損失(△)	49,324	△345,145	△295,820	5,182	△290,638

(注) 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、デジタルコンテンツ配信事業及び音楽コンテンツ事業等を含んでおります。

## 2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容（差異調整に関する事項）

(単位：千円)

利益	金額
報告セグメント計	△295,820
「その他」の区分の利益	5,182
四半期連結損益計算書の営業損失(△)	△290,638

## 3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

当第3四半期連結累計期間（自 平成26年1月1日 至 平成26年9月30日）

## 1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント			その他 (注)	合計
	物販	ライツ&メディア コミュニケーション	計		
売上高					
(1) 外部顧客に対する売上高	361,125	1,358,198	1,719,323	16,053	1,735,376
(2) セグメント間の内部売上高又は振替高	—	—	—	—	—
計	361,125	1,358,198	1,719,323	16,053	1,735,376
セグメント利益又は損失(△)	4,005	△69,983	△65,977	△469	△66,447

(注) 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、デジタルコンテンツ配信事業及び音楽コンテンツ事業等を含んでおります。

## 2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

(単位：千円)

利益	金額
報告セグメント計	△65,977
「その他」の区分の損失(△)	△469
四半期連結損益計算書の営業損失(△)	△66,447

## 3. 報告セグメントの変更等に関する事項

従来、「デジタルコンテンツ配信事業」として区分しておりました携帯電話及びパソコンプロバイダーを通じてのデジタルコンテンツ配信等については、量的な重要性が低下したため、第1四半期連結会計期間より「その他」に含めて表示する方法に変更しております。

なお、前第3四半期連結累計期間のセグメント情報については、変更後の区分方法により作成したものを記載しております。

## 4. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。